

福井工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	電子情報工学科		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	大修館書店『精選 国語総合 新訂版』				
担当教員	門屋 飛央				
到達目標					
(1) 古代から現代までの日本文学に触れ、日本語や日本文化に関心を持ち、理解できること。 (2) 文章を論理的に読むことができ、論理的な文章を書くことができること。 (3) 古典文法や漢文訓読を理解し、古典文学を解釈できること。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	日本文学に触れ、日本語や日本文化に積極的に関心を持ち、その解釈を表現することができる。		日本文学に触れ、日本語や日本文化に関心を持ち、理解できる。		日本文学に触れても、日本語や日本文化に関心をもたず、理解できない。
評価項目 2	文章を論理的に読むことができ、文章を論理的に書き、推敲することができる。		文章を論理的に読むことができ、文章を論理的に書くことができる。		文章を論理的に読むことができず、文章を論理的に書くことができない。
評価項目 3	古典文法や漢文訓読を十分に理解し、古典文学を多角的に解釈できること。		古典文法や漢文訓読を理解し、古典文学を解釈できること。		古典文法や漢文訓読を理解できず、古典文学を解釈できない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 RC2					
教育方法等					
概要	時代やジャンルの異なる様々な文章を読む。現代文では、評論や小説、詩を扱う。評論では、文章構成を分析し、筆者の問題提起、論拠、主張を的確に理解できるようになり、それを自身の文章表現にも活かせるようにする。小説や詩では、多角的な視点から解釈することを行う。古典文法や漢文訓読法は、正確な読みをするために必ず身に付けておかななくてはならない。この授業では、解釈を暗記するのではなく、解釈の方法や論理を理解することを目指す。				
授業の進め方・方法	ひとつの授業を現代文45分、古典45分に分けて行う。現代文では教員による講義のほかに、個人やグループで意見をまとめてもらう活動も行う。その課題に取り組むなかで、評論や小説を読解する力と、自分の考えを説明する力を習得していく。古典では、教員から学生に適宜質疑をし、古典の文章を分析的に読んでいく。				
注意点	授業時には、各教科書のほか、辞書をもって臨むこと。現代文の授業には国語辞典、古文の授業には古語辞典、漢文の授業には漢語辞典を持参すること。キャリア教育の入門的な内容として、手紙の書き方体験を組み入れる。評価方法とその割合は中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、提出物 (30%)、発表 (10%) である。100点満点で60点以上を合格とする。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の概要をつかむ。	
		2週	小説「羅生門」(1) / 土佐日記「門出」(1)	「羅生門」、「土佐日記」とも、作者や作品の時代背景を理解する。	
		3週	小説「羅生門」(2) / 土佐日記「門出」(2)	下人の置かれた境遇をつかむ。 / 「いささかにものに書きつく」までを読解する。	
		4週	小説「羅生門」(3) / 土佐日記「門出」(3)	下人の「勇氣」について理解する。 / 「夜更けぬ」までを読解する。	
		5週	小説「羅生門」(4) / 土佐日記「門出」(4)	芥川の表現技法について理解する。 / 「あざれあへり」までを読解する。	
		6週	小説「羅生門」(5) / 孔子の思想	老婆の論理を理解する。 / [学問]から2つを読解する。	
		7週	小説「羅生門」(6) / 孔子の思想	下人の心の動きをつかむ。 / [学問]から3つを読解する。	
		8週	中間試験	これまでの学習をまとめ、表現する。	
	2ndQ	9週	中間試験解説	試験結果をもとに、これまでの復習と各自の課題発見をする。	
		10週	評論「尋ねあい」(1) / 平家物語「木曾の最期」(1)	評論の構成について理解する。 / 「最後の合戦」を読解する。	
		11週	評論「尋ねあい」(2) / 平家物語「木曾の最期」(2)	問題提起、論拠、主張をつかむ。 / 「巴の戦い」「主従の思い」を読解する。	
		12週	評論「尋ねあい」(1) / 平家物語「木曾の最期」(3) / 【社会とつながる文章】暑中見舞葉書(1)	この評論の文章構成を分析する。 / 「今井の戦い」を読解する。 / 暑中見舞葉書の書き方を理解する。	
		13週	詩「蝿のうへ」「ひとつのメルヘン」「自分の感受性くらい」(1) / 平家物語「木曾の最期」(4) / 【社会とつながる文章】暑中見舞葉書(2)	詩を鑑賞し、どのように朗読するかを話し合う。 / 「義仲の最期」を読解する。 / 葉書のレイアウトを考え、文章を書く。	
		14週	詩「蝿のうへ」「ひとつのメルヘン」「自分の感受性くらい」(2) / 孔子の思想(3) / 【社会とつながる文章】暑中見舞(3)	グループで詩の朗読を発表する。 / [政治]から3つを読解する。 / 葉書の表書きを書き、完成させる。	
		15週	期末試験解説	試験結果をもとに、これまでの復習と各自の課題発見をする。	
		16週	前期まとめ	前期に行った学習をまとめ、後期での学習につなげる。	
後期	3rdQ	1週	評論「自然と人間の間をとおして考える」(1) / 奥の細道「旅立ち」(1)	問題提起、論拠、主張をつかむ。 / 「日々旅にして旅をすみか」とすまでを読解する。	

4thQ	2週	評論「自然と人間の関係をとおして考える」(2) / 奥の細道「旅立ち」(2) / 学校行事対応・弁論大会レポート(1)	各グループで、文章構成を話し合う。 / 「三里に灸するより」までを読解する。 / ディベートテーマについて、意見を出し合う。
	3週	評論「自然と人間の関係をとおして考える」(3) / 奥の細道「旅立ち」(3) / 学校行事対応・弁論大会レポート(2)	各グループの文章構成をもとに、議論を行う。 / 「表八句を庵の柱に掛け置く」までを読解する。 / ディベートテーマについて、意見を出し合う。 / ディベートテーマについて、討論する。
	4週	評論「自然と人間の関係をとおして考える」(4) / 奥の細道「旅立ち」(4) / 学校行事対応・弁論大会レポート(3)	評論を200字で要約する。 / 「涙をそそく」までを読解する。 / ディベートテーマについて、意見をまとめる。
	5週	評論「自然と人間の関係をとおして考える」(5) / 奥の細道「旅立ち」(5)	改めて文章構成を分析し、クラスでの読みを定める。 / 「見送るなるべし」までを読解する。
	6週	小説「城の崎にて」(1) / 唐代の詩(1)	近代文学史について理解する。 / 「絶句」を読解する。
	7週	小説「城の崎にて」(2) / 唐代の詩(2)	「よく欄干から蜂の出入りを眺めていた」までを読解する。 / 「春望」を読解する。
	8週	中間試験	これまでの学習をまとめ、表現する。
	9週	中間試験解説	試験結果をもとに、これまでの復習と各自の課題発見をする。
	10週	小説「城の崎にて」(3) / 源氏物語「若紫」(1)	「それはしかたのないことだ」までを読解する。 / 「尼なりけり」までを読解する。
	11週	小説「城の崎にて」(4) / 源氏物語「若紫」(2)	「自分は～助かった」までを読解する。 / 「顔はいと赤くすりなして立てり」までを読解する。
	12週	評論「技術としての「教養」」(1) / 源氏物語「若紫」(3)	文章構成を分析する。 / 「この子の後見なるべし」までを読解する。
	13週	評論「技術としての「教養」」(2) / 源氏物語「若紫」(4)	文章構成について議論する。 / 「ついぬたり」までを読解する。
	14週	評論「技術としての「教養」」(3) / 源氏物語「若紫」(5)	評論を100字要約する。 / 「涙ぞ落つる」までを読解する。
	15週	期末試験解説	試験結果をもとに、これまでの復習と各自の課題発見をする。
	16週	一年間のまとめ	一年間に行った学習をまとめ、今後の学習につなげる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	前11, 前12, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後12, 後14
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	前8, 前10, 前11, 前12, 後8, 後14
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前2, 前3, 前4, 前5, 前6, 前7, 前8, 前13, 前14, 後1, 後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後10, 後11, 後12
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	前8, 前12, 前13, 前14, 前15, 後8, 後14, 後15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前6, 前7, 後13
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	前5, 前6, 前7, 後2, 後13
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前8, 後4, 後6, 後8, 後13
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前12, 前13
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前5, 前10, 前11, 前12, 前13, 後3, 後14
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前1, 前9, 前16, 後1, 後3, 後9, 後11, 後12, 後15, 後16
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前8, 前13, 前15, 後4, 後8, 後11
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前14, 後3, 後4, 後13

			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前4,前5,前14,後2,後3,後4,後5,後7,後13
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前5,前7,前14,後2,後3,後4,後5,後12,後13
			新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前5,前6,前7,前14,前15,後1,後10,後11

評価割合

	中間試験	期末試験	課題	発表	合計
総合評価割合	30	30	30	10	100
基礎的能力	30	30	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0